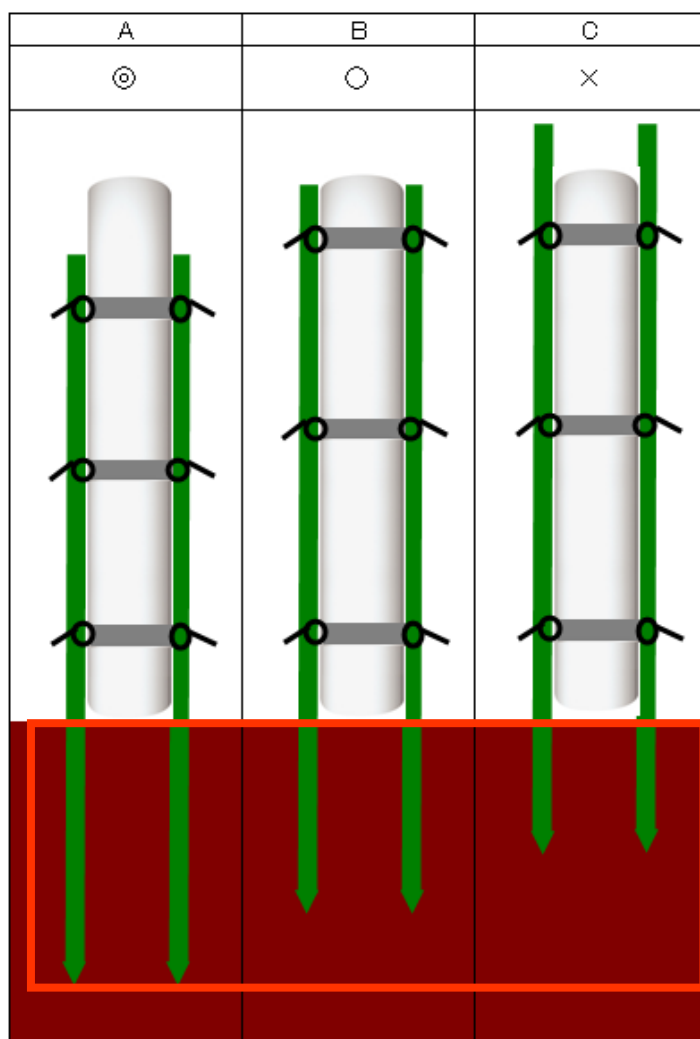


支柱の打ち込み方に関する注意事項

1. 土中深く、十二分に打ち込むこと
2. 特に軟弱な土壌の場合は、下図Aのように効くまで打ち込むこと
3. 軟弱でなくとも、下図Aのように土中深く打ち込むこと
4. 下図Bのように、ツリーシェルター上部先端まで打ち込んで、十分打ち込んだとは言えない。下図Aの位置まで打つのが理想
5. 下図Cは、支柱の打ち込みが不十分な例である。
支柱の打ち込みが浅いため、下図A、Bに比べ、ツリーシェルターを支える効果が薄く、風・雪による倒伏の可能性が高い。

ツリーシェルター設置図



図A

- ・支柱の打ち込みは深い。
- ・支柱効果が、打ち込みが深いため大きい
- ・理想的な打ち込み方

図B

- ・標準的な打ち込み方
- ・更に打ち込めるのであれば、図Aの位置まで打ち込むこと
- ・土壌上部が軟弱な場合は、容易に打ち込める深さであり、支柱の効果を発揮するまで打ち込んだとは言えない深さである

図C

- ・支柱の打ち込みが不十分であり、打ち込みの深さが足りない。
- ・僅かな風や積雪でも倒伏の危険が高い

打ち込みが深いほうが、支柱としての効果は高い!!